

令和 5 年 6 月 11 日現在

機関番号：34603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00096

研究課題名(和文) 古代末期地中海世界の女性と個の発見

研究課題名(英文) Women's Self-Discovery in Late Antiquity

研究代表者

足立 広明 (Adachi, Hiroaki)

奈良大学・文学部・教授

研究者番号：30412141

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：研究は『聖書外典パウロとテクラの行伝』の分析に始まり、女性テクラが仲介者なしに神のみに誓って自己に施す洗礼場面に、古代末期における個人としての女性の誕生の可能性を見出だした。続いて、彼女やその母親もその一員と想定しうるローマ時代の地方都市の女性恩恵施与者らの実態を碑文で確認した。最終年度はこうした女性恩恵施与者の最大の継承者で、またテクラを理想化した娘ユースタを中心とする物語を執筆した皇妃エウドキアの執筆した物語分析に移った。テクラが女性使徒となる過程とローマの女性恩恵施与者についてはそれぞれ国際学会と国内学会で研究発表後論文を公にし、エウドキアについても研究発表後、現在論文執筆を進めている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年ジェンダーに関連する研究は大きな進展を遂げているが、わが国の場合、そのほとんどは近現代を対象とするもので、ジェンダー研究の発信地である欧米において古代末期のキリスト教成立前後の文化的変容が重要な研究対象となっていることはあまり知られていない。女性使徒テクラもそのような研究対象で、彼女に関連する史料はこれまで男性使徒パウロの言葉のみから想定されてきた神の前の個人、自分の内に生きるキリストという概念を、女性もまた自らものとしていたことを示唆する。本研究はテクラの外典伝承を出発点に、彼女を生きた模範とした古代末期の女性たちの貴重な証言の復元を、皇后エウドキアの著作などから試みたものである。

研究成果の概要(英文)：This study has begun with the analysis of the "Acts of Paul and Thecla." In it, Thecla baptized herself, swearing only to God without a mediator, so that I speculate it was the moment of the birth of an individual woman in Late Antiquity. Then, I investigated the inscriptions of the female benefactors, including Thecla and her mother, in the provincial Roman cities. In the final year, I moved on to the analysis of the stories written by Empress Eudocia, who was the greatest successor of these female benefactors and the author of a story of Justa, a daughter idealized Thecla. The presentations about Thecla and the female benefactors of Rome were read at some international and domestic conferences, and the papers about them were published after the presentations. Researches on Eudocia are also currently underway after the presentation.

研究分野：古代末期のジェンダーと宗教

キーワード：ジェンダー 女性使徒 神の前の個人 自己洗礼 キリスト教 テクラ エウドキア Homocentones

1. 研究開始当初の背景

本研究は、代表者足立の長年にわたるテクラ研究および古代末期研究の延長上にある。テクラを主人公とする『聖書外典パウロとテクラの行伝』は2世紀の作品であるが、その後3世紀の教父テルトゥリアヌスの断罪（パウロの名を騙って女性に宣教と洗礼の権利を保障する偽書とした）にもかかわらず4-5世紀を通じて各地に拡大した。足立は、テクラの聖地を巡礼した女性エゲリアの証言や同聖地で執筆された『聖テクラの生涯と奇蹟』に記録された女性たちの言動、それにテクラの道を歩む女性たちを書き留めた教父史料などからテクラが女性の結婚や出産の守護聖人となり、女性たちの旅や相互教育、あるいは家族生活からの避難所を保障していたと論じてきた。テクラ崇敬のこのような社会的機能の核心には、誰の仲介もなしに神自身の前で自らに洗礼を捧げる『行伝』中の場面があり、古代末期の女性たちはこれを自らへのメッセージとして受け取ったのではなかったか。本研究はこの見通しの下、まず上述『行伝』を再読・分析し、ついで『行伝』執筆時代の女性たちの公的立場の実態を碑文研究から探り、最後にテクラを範とする古代末期の女性たちに関連する史料、とりわけ女性自身の書き残した数少ない貴重な史料を執筆したエウドキアの著作を研究対象とすることに定めた。

2. 研究の目的

1で述べたように本研究では、まず『行伝』の分析、つぎにローマ時代の碑文に現れる地方都市女性の公的活動の分析、最後にエウドキアを中心とする古代末期の女性たちのテクラ受容と彼女たち自身の歩みを追うことで、古代末期の女性たちが、元首政以前の伝統的都市とその家族の枠を超えた新しいキリスト教の宗教共同体の形成にどのように主体的なかかわりを持ちえたのかを明らかにしようとした。また、新しい共同体形成への主体的関与の過程で浮かび上がるのは神の前の個人としての女性である。伝承のなかのテクラを範としつつ、現実に生きる女性エウドキアはどのような新しい自己を構想していたのかをその著作『殉教者キュプリアノス伝』と『ホメロス風聖書物語』から探っていく。

3. 研究の方法

近年の先行研究を参考としつつ、しかしそこでまだ触れられていない点を中心に史料を独自分析した。外典『行伝』の場合、多くの先行研究はテクラをパウロの従者として解釈することが通例であるが、この観点では物語中でパウロがテクラを見捨てて立ち去る場面以降の説明ができない。彼女は女性支持者の見守る中、仲介者なしに神のみに誓って自らに洗礼を捧げ、それ以降は神自身に守られるパウロと対等な女性の使徒に成長する。パウロではなく、パウロによって語られた神の言葉にテクラは目覚め、そのことに自分自身が気づいて彼から自立・成長していく物語と読むと、これ以外の不可解な場面も読み解くことができたのでその仮説を提示した。

テクラを範とした古代末期の皇妃エウドキアの場合も同様の手続きを踏んだ。彼女の作品『殉教者キュプリアノス伝』は、テクラを理想化した娘ユースタと彼女を誘惑しようとして敗れ、改宗する魔術師キュプリアノスの物語であるが、唯一の先行研究と言っていいBrian Sowersは、故郷と家族を捨て迷いつつ放浪して自分探しをするテクラと違って、自宅に留まり、確信を持って両親を改宗させ、悪魔を一蹴するユースタに都市と家族を守る体制側の宗教となったキリスト教とその帝国の皇妃エウドキアのエージェンシーを見出そうとする。しかし、現実のエウドキアは都市にも家族にも守られない人生を歩んだ。彼女はアテナイの哲学者の娘に生まれ、コンスタンティノーブルで受洗して皇后となるがやがて追放され、隠遁先のイェルサレムで執筆活動に明け暮れた。その人生はむしろ改宗する魔術師キュプリアノスに近いのである。彼女と同じくアテナイ出身で世界を放浪しつつ、最終的に理想化されたテクラであるユースタに出会うまでの人生は彼女自身の人生の投影として再読すると本作品はスムーズに解読できる。それはまた、「異」教世界からキリスト教世界に移行する古代末期の文化変容そのものを彼女なりの視点で著しているのではないか。このような観点から現在論文執筆を構想している。

エウドキアにはこのほかにホメロス原作の『イリアス』と『オデュッセイア』の文章をばらばらに引用しながら、これを聖書物語として紡ぎ直したHomerocentones(仮訳『ホメロス風聖書物語』)がある。ここには実際の聖書以上に能動的な女性たちの姿が描かれ、上述Sowersはヨハネ福音書のサマリア人の女のエピソードに相当する箇所、Anna Lefteratouはミケランジェロのピエタに千年先行する聖母の嘆きの最初の整った叙述に注目するが、個別の女性エピソード全体を関連付けた研究は現時点ではまだ存在しない。しかし、創世記のエヴァに相当する女性から聖母の前に神の子が復活する場面までは明らかに連動しており、それが当時の聴衆にも分かるように書かれているように思われる。この点の解明を急ぐとともに、女性の前に出現・復活する男性イエスもまた上述キュプリアノスと同じく作者エウドキア自身の分身、彼女の内なるキリストであり、男性や聖職者を介してでなく、直接彼女自身が神と個人として向き合う物語として読み解くべきではないか。このような視点から現在再度の国際教父学会での研究発表に向けて分析を進めている。

4. 研究成果

以上のような観点からこの間研究を進め、以下の別表のような研究成果を公にした。国際学会発表 a) とそれに基づく論文 a) は『行伝』のテクラが都市の女性パトロンの娘から神の女しもべへとアイデンティティを変容させ、神の前の個人としての自覚を得るとともに、ただ単に出身都市と家族を捨てるだけでなく、信仰で結ばれた新しい家族と共同体を形成していく過程を史的に検証した。国内学会口頭発表 a) と論文 b) は、テクラが逃れようとした同時代の伝統的な都市や家族のなかで女性たちがどのような公的立場を担っていたかを碑文から検証したものである。その結果わかったことは、女性は制限付きながらも地方都市において公共事業などで恩恵施与者として公的役割をかなりの割合で担っていたということである。テクラは女性を排除する抑圧的な体制から逃れたのではなく、改宗しなければ彼女も担ったであろう都市の女性パトロンの地位をあえて捨てて別の道を歩んだことになる。つまり、古代の伝統的な都市共同体からキリスト教の共同体への変換が読み取れるのである。

その後の一連の学会発表では、皇妃エウドキアの執筆作品の分析に移行した。口頭発表 b) c) では、「3」で述べたように、Sowers の先行研究を参考にしながらそれより一歩進め、テクラを理想化した娘ユースタに向かって進むキュプリアノスの懊悩と変容にエウドキア自身の姿を読み込んだ。また論文 d) はエウドキアのもう一つの作品で彼女の代表作である『ホメロス風聖書物語』を分析したもので、同物語のなかに樂園追放から救済に至る女性の物語が埋め込まれているという仮説を提示した。現在 b) c) d) については論文化を考えている。

また論文 c) は、この間関連して共同研究の機会を得た「東方キリスト教と女性」(科研 B : 代表宮本久雄) において、足立のこれまでのテクラ研究全体を概観し、合わせてエウドキア研究に至る展望を古代キリスト教女性史に関係する方々と関心のある読者に示したものである。

【論文】

- a) Hiroaki Adachi, ' I Baptize Myself in the Name of Jesus Christ ' : The Female Apostle Thecla and her Self-Decision before God. *Studia Patristica*, Vol. CXXIV, 2022 (査読あり)。
- b) 足立広明「ウンミディア・クアドラティッラの仲間たち ローマ世界における女性の公的主体 (public agency) とその変容」『奈良大学大学院研究年報』第 27 号、2022 年 (査読あり)。
- c) 足立広明「神と向き合う私 女性使徒テクラとローマ女性の変容」: 宮本久雄編『古代キリスト教の女性 - その霊性伝承と多様性』教友社、2022 年 3 月。

【口頭発表】

国際学会

- a) Hiroaki Adachi, " I Baptize Myself in the Name of Jesus Christ: Female Apostle Thecla and her Self-Decision in front of Jesus, " XVIII. International Conference on Patristic Studies, Oxford, 19 August - 24 August 2019.
 - b) Hiroaki Adachi, " From Thecla to Eudocia: St. Cyprianus and a Making of Female Agency in Late Antiquity, " Pacific Partnership in Late Antiquity February 2022 Zoom Conference
- ##### 国内学会
- a) 足立広明「ウンミディア・クアドラティッラの仲間たち ローマ世界における女性の公的主体 (public agency) とその変容」日本西洋古典学会第 71 回大会、2021 年 6 月 (国際基督教大学オンライン開催)。
 - b) 足立広明「テクラからエウドキアへ 殉教者キュプリアノス伝と古代末期の女性のエージェンシー」第 19 回日本ビザンツ学会大会、2022 年 3 月 (奈良大学オンライン開催)。
 - c) 足立広明「皇妃エウドキアと『殉教者キュプリアノス伝』 - 古代末期の女性エージェンシーの変容」第 73 回キリスト教史学会大会 2022 年 9 月 (南山大学オンライン開催)。
 - d) 足立広明「皇妃エウドキアのおデュッセイア 『ホメロス風聖書物語』にみる古代末期の文化変容」第 73 回日本西洋古典学会大会、2023 年 (獨協大学、ハイブリッド開催)。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Hiroaki Adachi	4. 巻 CXXIV
2. 論文標題 "I Baptize Myself in the Name of Jesus Christ" Female Apostle Thecla and her Self-Decision in front of Jesus	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Studia Patristica	6. 最初と最後の頁 203-216
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 足立広明	4. 巻 第27号
2. 論文標題 ウンミディア・クアドラティッラの仲間たち ローマ世界における女性の 公的主体（public agency）とその変容	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 奈良大学大学院研究年報	6. 最初と最後の頁 21-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 足立広明
2. 発表標題 「皇妃エウドキアのおデュッセイア 『ホメロス風聖書物語』にみる古代末期の文化変容」
3. 学会等名 第73回日本西洋古典学会大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 足立広明
2. 発表標題 「皇妃エウドキアと『殉教者キュプリアノス伝』 - 古代末期の女性エージェンシー
3. 学会等名 第73回キリスト教史学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 足立広明
2. 発表標題 Ummidia Quadratillaの仲間たち ローマ世界における女性の公的主体 (public agency) とその変容
3. 学会等名 第71回日本西洋古典学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroaki Adachi
2. 発表標題 From Thecla to Eudocia : St. Cyprianus and a Making of Female Agency in Late Antiquity
3. 学会等名 Pacific Partnership in Late Antiquity (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 足立広明
2. 発表標題 テクラからエウドキアへ 殉教者キュプリアノス伝と古代末期の女性のエージェンシー
3. 学会等名 第19回日本ビザンツ学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 足立広明
2. 発表標題 Ummidia Quadratillaの仲間たち ローマ世界における女性の公的主体 (public agency) とその変容
3. 学会等名 第71回日本西洋古典学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroaki ADACHI
2. 発表標題 “ I Baptize Myself in the Name of Jesus Christ ”
3. 学会等名 Eighteenth International Conference on Patristic Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------